



国内株式パッシブ運用受託機関の審査結果について

区分	報告	対象範囲	伝統的資産
----	----	------	-------

エグゼクティブサマリー

・国内株式パッシブファンドの審査を実施した結果、運用委託先が以下のようになった。

ステータス	審査後の運用受託機関	ステータス	審査後の運用受託機関
新規	りそな銀行	継続	三井住友信託銀行
新規	フィデリティ投信	継続	三菱UFJ信託銀行
継続	アセットマネジメントOne	継続	野村アセットマネジメント
継続	ブラックロック・ジャパン	継続	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

バックグラウンド

・平成28年度に国内株式についてマネジャーエントリー制度を導入し、パッシブ運用機関の選定作業に着手した。

フィードバック期間及び検証方法

・随時モニタリングに加え、総合評価を行い、運用能力を確認する。

便益及びリスク

・内外株パッシブ運用について、同一の評価基準で評価できる体系が整った。
 ・新たな視点を持ったスチュワードシップ活動実績豊富な受託機関が揃い、多様なエンゲージメントが期待できる体制となった。

戦略プラン

・スチュワードシップ活動の多様化を目的とし、報酬も含めたビジネスモデルについて評価を行うこととした。

KPI

・インデックスのトラック及び付加価値（超過収益の獲得）計測

その他

国内株式パッシブ運用受託機関の審査結果について

1. 選定の目的

(1) 多様なインデックスへの対応力強化

- ・ スマートβやESGインデックス等様々なインデックスでのパッシブ運用が拡大。
- ・ 幅広いインデックスに対応可能な運用機関を採用へ

(2) スチュワードシップ活動の強化

- ・ パッシブ運用ではスチュワードシップ活動を通じたβの底上げを期待
- ・ 新たな評価基準ではスチュワードシップ活動の評価がより重要に
- ・ 運用機関を増やし、スチュワードシップのアプローチ方法の多様化も期待

2. 評価項目

今回の選定に当たっては、特に以下のポイントについてより重点を置きヒアリングを実施した。また、運用プロセスとスチュワードシップ活動の方針、それらを実施するための組織体制及び報酬水準を一体としたビジネスモデル提案について評価を行った。

(1) 付加価値の提供能力について

当法人のパッシブはインデックスに厳密にトラックするよりも、効率的な投資行動によるコスト削減を通じて付加価値を加えることを求めている。それについての手段と実績を確認した。

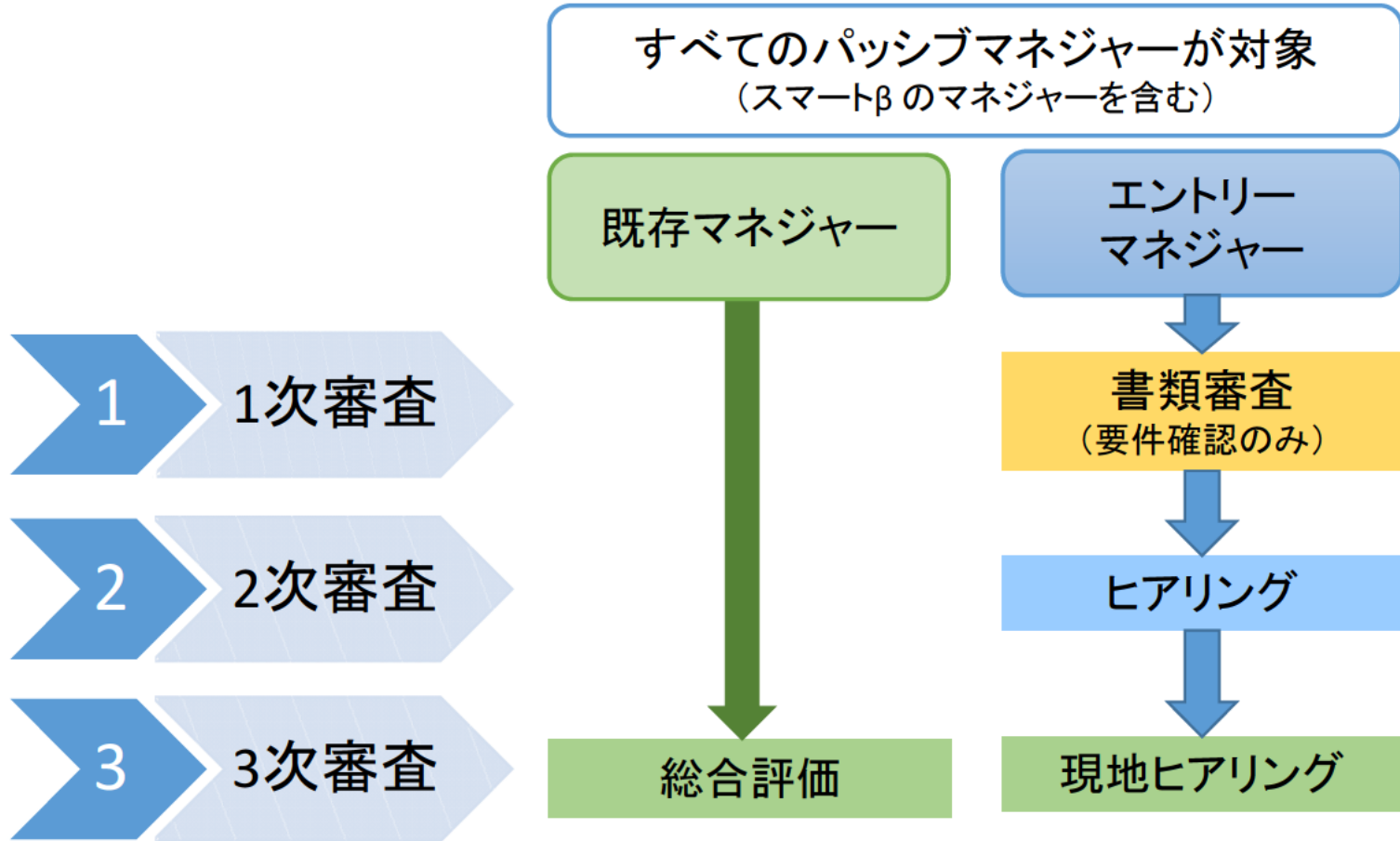
(2) スチュワードシップ活動について

- ・ スチュワードシップ活動を行う上で重要な運用機関自体のガバナンスについて、顧客との利益相反防止体制等について確認を行った。
- ・ スチュワードシップ活動の目的、企業に対し何を求めるか。スチュワードシップ活動をどのような KPI を使用して自己評価しているかを確認した。
- ・ 運用機関内におけるスチュワードシップ活動の位置づけとリソースの配分の考え方、スチュワードシップ担当者の評価体系を確認した。

(3) 報酬体系について

運用及びスチュワードシップ活動の質に対して合理的な水準と考えられる水準か、あるいは報酬について明らかな優位性を認められるかどうかを確認した。

3. 国内株式パッシブ運用機関の選定フロー



4. 審査結果

国内株式パッシブ運用機関の審査結果

ステータス		運用機関名	審査結果		
			1次	2次	3次
1	新規	(1次選定後辞退)	○	-	-
2	新規		○	×	-
3	新規		○	×	-
4	新規		○	×	-
5	新規	りそな銀行	○	○	○
6	新規	フィデリティ投信	○	○	○
7	継続	アセットマネジメントOne	-	-	○
8	継続	ブラックロック・ジャパン	-	-	○
9	継続	三井住友信託銀行	-	-	○
10	継続	三菱UFJ信託銀行	-	-	○
11	継続	野村アセットマネジメント	-	-	○
12	継続	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	-	-	○

5. 国内株式パッシブ運用機関審査の概要

(1) 第1次審査について

新規の6社についての審査を実施し、応募要件を満たしていることから通過とした。

(2) 第2次審査について

辞退した を除く5社についてミーティングを行い審査を実施した。

審査結果	運用機関名	内容
通過	りそな銀行	・りそな銀行は ・りそな銀行のステュワードシップ活動は、 は高く評価する。
	フィデリティ投信	・フィデリティ投信の ・フィデリティ投信は 審査通過を妨げるものではない。この点については、3次審査時に現地にて確認を行う予定。 新たな取り組みは高く評価できる。 今後取り組む予定としており、

審査結果	運用機関名	内容
不通過		

(3) 第3次審査について

第2次審査通過の2社と既存の運用機関6社の第3次審査を実施した。

審査結果	ステータス	運用機関名	内容
通過	新規	りそな銀行	・りそな銀行は ・りそな銀行のステュワードシップ活動は、 は高く評価する。
	新規	フィデリティ投信	・フィデリティ投信の ・運用面では付加価値創出について 新たな取り組みは高く評価できる。
	継続	アセットマネジメントOne	提出された工程表に基づいて進捗状況を確認することとし、提案を承認することとした。
	継続	ブラックロック・ジャパン	
	継続	三井住友信託銀行	から大きく改善が見られたと評価している。 ・運用部門を信託銀行から分離して投資顧問会社へ移管することを決定し、利益相反防止の体制をより強化している。
	継続	三菱UFJ信託銀行	
	継続	野村アセットマネジメント	は他社と比べて進んでいる と評価している。
	継続	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	限られたリソースを効率的に活用していると認識している。

以上